



本郷台中だより

～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和6年度第1号
令和6年4月17日
文京区立本郷台中学校
校長 江熊 秀昭

「おせっかい」していいですか 行動する傍観者 江熊 秀昭

高校の自習時間にいきなり怒鳴り声が聞こえ、振り返るとつかみ合い、今にも殴りかかりそうになっている二人がいて、慌てて止めに入りました。その二人が「やはり、おまえが止めに来たな。だれが来るか試したんだ」と笑って言いました。また、教員になってから、心配な同僚がいて、何かと声をかけたりしていたら「おせっかいすぎる。放っておいて!」と言われたこともあります(>_<)

困っている人がいる、怒鳴り合っている人がいる、そのような場面に出会った時に何とか救いたいと思う。でも「何か事情があるのかも」「立ち入るのはおせっかいではないか」と散々迷った揚げ句、何も出来なかった。後味の悪さが、いつまで経っても消えない…そのような経験や想いはないでしょうか?

「アクティブ・バイスター(行動する傍観者)」という言葉を知り、「これなら」とピンとききました。嫌がらせ(ハラスメント)や差別を受けている人に適切に介入する第三者のことで、事態の悪化を防ぐ効果があるという。

「何もしないということは、目の前の嫌がらせを容認することにつながる。差別行為を見逃すことは、『中立』ではなく、差別への加担になる」

談：一般社団法人ジェンダー総合研究所 共同代表 濱田真理さん

2023年「世界人助け指数」によると日本はしたから4番目の139位。寄付、ボランティア時間も低調ですが、「見知らぬ人を助ける」の項目が特に低い。

困っている人の縄張りに足を踏み入れる行為は、信頼関係を築く契機にもなれば、不愉快にさせる可能性もある。ただし「必要なら助けるよ」というコミュニケーションを取れば、助けることも、迷惑をかけないことも両立できる可能性がある。日本社会は「迷惑をかけること」への不安が強すぎ、声をかけることさえ、ためらうのではないか。英語に「おせっかい」にあてはまる言葉はない。 談：イタリア出身の精神科医P・フランチェスコさん

助ける(介入)かどうかを迷ったときは「自分がその行為を見過ごしたくないかどうか」が判断基準になるそうです。そして、嫌がらせの加害者と直接、対峙しなくても、周囲の人に助けを求める、スマホで記録する、全く関係ない話をして注意をそらすことも、立派な介入となります。学校や職場でのイジメ、公共の場での迷惑行為など…、残念ながら社会は「行動する傍観者が必要な場面にあふれているようです。

実際に嫌な思いをした人、介入できずに悔しい思いをした人など心の痛みは、他人を思い

やる原動力にもなります。他人に迷惑をかけてしまう自分を肯定することは、他人とつながる第一歩にもなります。

「おせっかい」のできる人が増えれば、「みんながしあわせを感じられる」学校や社会に近づきます。是非、全校生徒249名の「おせっかい」を楽しみにしています。



入学式



部活動紹介



1年生



2年生



3年生

【生徒の活躍】

- ・ 3年男子 本郷消防少年団副団長・皆勤賞・優秀消防少年団員賞
- ・ 1年女子 本郷消防少年団皆勤賞

【4月行事予定】

8日	月	始業式・着任式
9日	火	第27回入学式
10日	水	全校朝礼
11日	木	身体計測・体力測定
12日	金	生徒会入会式・部活動紹介・春の交通安全運動（本郷三丁目交差点）
15日	月	個人写真撮影・仮入部始
17日	水	専門委員会
18日	木	3年全国学力調査・歯科検診(1・2年)・保護者会
19日	金	避難訓練
22日	月	生徒会朝礼・認証式
24日	水	内科検診(全学年)・職員会議
25日	木	歯科検診(3年)
26日	金	仮入部終
29日	月	昭和の日